

大田区自立支援協議会 令和3・4年度 第10回地域生活部会議事録

文責：橋本 朋子  
(事務局一部修正)

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和3・4年度 第10回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和4年10月27日(木) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席し委員、事務局	伊藤 朋春	山根 聖子	青山 明子	大場 貴弘
	小野 英次郎	金子 正	柴田 静	蓮井 祥子
	平井 有希子	金丸 正明	小松代 菜央	新田 美和
	橋本 朋子			
	区事務局：土岐、西澤、親跡、木村、藤崎			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <p>①資料確認</p> <p>②前回回収分ご意見カードについて</p> <p>(2) 地域課題の検討</p> <p>1) 成人期・高齢期についての検討課題の整理</p> <p>【マスタープラン・アクションプランの確認】</p> <p>それぞれの立場から、個の情報をどう伝えていくのか？(手元にある情報を活用する。身近にあるものを利用する。)視点としては10年後くらいを一つの目途に考える。</p> <p>2) 課題抽出方法の検討</p> <p>個の理解や情報発信について、家族・支援者等様々な立場の委員から、経験談や課題に感じていることをあげてもらった。</p> <p>▼当事者家族として</p> <p>◎重症心身障がい児については、医療的ケアがあるので、訪問看護ステーションや医療機関を通じて情報をやり取りできていると感じる。</p> <p>◎日常生活の中で積極的に外出し、周辺住民の方々へ子どもの話をするなど、理解者を増やすことを心掛けている。</p> <p>◎小学校までは普通級に通学していたこともあり、当時の同級生が今でも声を掛けてくれるといった、地域のつながりもある。</p> <p>◎母子手帳の後の様々な記録を記入していくようなノートもあるので、そういうものを活用していくとよいと思う。(随時記入するのは親として負担ではあるが。)</p> <p>◎今は小学4年生を対象に理解啓発の時間が設けられているが、中学校時、高校時と継続していくことができればよいと思う。</p> <p>◎見た目ですぐにわからない障がいの場合、ヘルプカードなどは親の安心のためにも活用している。子どもの立ち寄り先に親の連絡先を伝えに行ったりと、必要に迫られて皆さん生活の中で対応しているのだと思う。親の会など各団体では、家族新聞などを作って積極的に発信している。</p> <p>◎大田区のイベントに積極的に参加したり、外出の際できるだけ公共交通機関を利用したりして、とにかく知ってもらおうと努めた。</p> <p>◎地域の活動への参加はハードルが高い。小学校は地元でも中学から特別支援学校に行ってしまうと、そこで地域とのつながりが薄れてしまう。</p> <p>□家族会単位でやっていることは多いが、それをどのように広く発信していくのが課題。</p>			

▼支援者として

- ◎本人の情報については、身近なところ、限られた範囲で伝えることで大体成り立っている。個人情報の発信はプライバシーの問題もあり難しいが、伝えられる地域の範囲がもっと広がっていくといい。
- ◎パニックを起こすような障がいの場合は、ヘルプカードなどの文字の情報だけで状態を把握したり対応するのは難しいと感じる。
- ◎地域に発信する一番の近道は、イベント開催や施設を建てるなど。最初は反対意見があっても少しずつ理解は広がっていく。施設ができた後にアルバイトやパートで働いてくれる人は、施設の近隣に暮らしている人たちが多く。
- ◎日常生活の中で行事に参加する等、繰り返し外に出ていくことで理解してもらっている。
- ◎大事にしていることは外に出ていくこと。公園や公共交通機関などを利用し、多くの人に知ってもらうことで、自然と理解は広がる。
- ◎地域に知ってもらう活動や作業は行っている。ホームページやSNSなどの発信ツールを利用して活動紹介などを行っている。一当事者の意見としては、普通の生活に出ていくことが最大の理解啓発だと思う。
- ◎障がいのことを知らないから怖いと感じるのではないか。小学校くらいから、理解啓発を継続していくことが大事。
- ◎10年後、今の学齢期の子どもたちが社会に出る時をイメージして、どのような理解啓発の取り組みが必要かを考えたい。
- ◎学校の中での理解啓発に加えて、「社会全体に向けて」と「個人で行う」の二つがあることが望ましい。
- ◎学校で行う理解啓発については、「一般的な障がい特性について」という広い視点と、対象者本人にフォーカスした、「その人個人について」という二つの視点から行うことが望ましい。
- ◎一般的な障がい特性についての理解啓発は広く浅く行うべきもの。個人への理解や対応は深くないと意味がないと私は考えている。この二つは全く違うので、分けて考えた方がよい。
- ◎社会に向けて体験型の理解啓発をすることで、身近な場面で少し手伝えることがあると気付くようになると、10年後身近な支援者が増えているかもしれない。
- ◎地域の方は、高齢と比べて障がいは自分のこととして感じにくい。地域で活動している民生委員に対して、障がいに関する理解啓発活動を試みてはどうか。
- 個々で情報発信をしていくことはできるが、団体としては難しい部分や限界がある。
- 日常生活を通して、特定のエリアでは理解啓発できているが、知らない人も多い。エリアを広げていくにはどうしたらいいか。
- 身近な『理解者』・『支援者』をどうやって増やしていくか。どのように繋げていくかが課題。
- 一般的な障がい特性のみならず、障がいを持つ当事者一人ひとりについても知ってくれている人を増やすこと、みんなで支えていける社会を作ること、障がいのある人も暮らしやすい・生活しやすい地域になっていく。

⇒今回あがった意見や見えてきた課題について整理し、次回専門部会で課題の検討に取り組む。

	<p>2 その他</p> <p>1) 全体交流会の感想</p> <p>2) 事務連絡</p> <p>    次回作業部会           11月1日(火)</p> <p>    次回専門部会           11月15日(火)</p>	
		以上